

日本プライマリ・ケア連合学会 感染症委員会 ワクチンチームからのお知らせ

「こどもとおとなのワクチンサイト」の新着情報です

<https://www.vaccine4all.jp/>

■ワクチンスケジュールを 2025 年 5 月度版にアップデートしました。

★ワクチン名、接種回数、時期が一覧できます。

「こどもワクチン接種スケジュール」

https://www.vaccine4all.jp/shared/files/vaccine_A4_0_19.pdf

「おとなワクチン接種スケジュール」

https://www.vaccine4all.jp/shared/files/vaccine_A4_20over.pdf

「全年齢ワクチン接種スケジュール」

https://www.vaccine4all.jp/shared/files/vaccine_A4_all_age.pdf

■【予防接種推進専門協議会】百日咳流行に伴うワクチン接種に関するお願い

全国的に百日咳の流行が拡大しており、乳児を中心に死亡例を含む重症例が報告されています。更に薬剤耐性の問題もあり、有効な治療手段が限られており、百日せき含有ワクチンの接種による予防が各学会から推奨されています。

小児に対しては、定期接種である生後 2 か月からの 5 種混合ワクチン (DPT-IPV/Hib) に加え、就学前児への三種混合ワクチン (DPT) の追加接種や、11~12 歳児に対する二種混合ワクチン (DT) 接種の代替としての DPT 任意接種が推奨されています。さらに、妊婦に対する DPT 接種は、移行抗体により生後 2 か月未満の乳児を百日咳から守る有効な手段として、紹介されています。

三種混合ワクチン (DPT) の需要が高まる中、重症化リスクの高い早期乳児への感染を防ぐための接種を最優先とし、次いで乳児と頻回に接触する感受性者への接種を推奨します。

<https://www.vaccine4all.jp/files/news/news-198-1.pdf>

■帯状疱疹ワクチンが定期接種になりました

2025年4月より帯状疱疹ワクチンが定期接種になりました。

帯状疱疹ワクチンには2種類（生ワクチンと不活化ワクチン）があります。

定期接種の対象者は

- ①年度内に65歳になる人
- ②60～64歳で対象となる人（※ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な人）
- ③2025年度から2029年度までの5年間の経過措置として、その年度内に70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる人
- ④2025年度に限り、100歳以上の人は全員対象です。

<https://www.vaccine4all.jp/news-detail.php?npage=1&nid=196>



ワクチン名	接種間隔	対象者・注意事項
B型肝炎	①-②の間は4週以上あける、①-③の間は20週以上あける ①生直後 ②生後1か月 ③生後6か月	定期：0歳で3回接種 1歳以上でも未接種の場合は、早めに接種することを推奨 HBs抗原陽性の母親から生まれたHBs抗原陰性の乳児（健康保険適用）
ロタウイルス	生後6週以降、①は生後8週-15週未満を推奨（遅くとも生後14週6日までに開始） ・1価ワクチン：①-②は4週以上あける ・5価ワクチン：①-②-③は4週以上あける	定期：1価ワクチン 生後6週から6か月（24週）までに完了する 定期：5価ワクチン 生後6週から8か月（32週）までに完了する
肺炎球菌（結合型）（PCV15・20）	・初回接種が生後2か月-6か月：①-②-③の間はそれぞれ27日以上あける、③-④の間は60日以上あけて、1歳から1歳3か月で④を接種 ・初回接種が生後7か月-11か月：①、②の接種後60日以上あけて1歳以降に③ ・初回接種が1歳-生後23か月：①-②の間は60日以上あける ・初回接種が2歳-4歳：①のみ	定期：生後2か月-5歳の前日まで 任意：高齢者または肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高い人
肺炎球菌（PPSV23）	定期：65歳の者（成人のワクチン接種スケジュール参照） 任意：2歳以上 対象者：(1) 脾臓摘出した人の肺炎球菌予防（健康保険適用）(2) 鎌状赤血球症、脾機能不全、心臓・呼吸器の慢性疾患、腎不全、肝機能障害、糖尿病、慢性髄液漏等の基礎疾患のある人、免疫抑制剤治療予定者（治療開始まで14日以上の余裕のある場合）	
五種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ・ヒブ） 四種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ） 二種混合（ジフテリア・破傷風） 三種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風）	①-②-③の間はそれぞれ20-56日あける ③-④の間は6か月以上あける （標準は③終了後12-18か月の間） 11歳-13歳未満 二種混合 二種混合の代わりに三種混合ワクチンを接種可（百日咳予防目的）	定期： 1期：生後2か月-7歳半の前日まで（五種混合・四種混合・三種混合・ポリオ） ・二種混合を1期に使用する場合は生後3か月から 2期：11歳-13歳の誕生日前日まで（二種混合） 任意（推奨）：5歳-7歳未満 三種混合ワクチンを追加接種（百日咳予防目的） 不活化ポリオワクチンを追加接種（ポリオ予防目的）
ポリオ（IPV）	①-②-③はそれぞれ20-56日あける ③-④は6か月以上あける （標準は③終了後12-18か月の間）	任意（推奨）： ⑤ 5歳-7歳未満 ポリオに対する免疫が低下する前の接種を推奨 ・ポリオ流行地へ行く人
ヒブ（インフルエンザ菌b型）	・初回接種が生後2か月-6か月：①-②-③の間はそれぞれ27-56日、③-④の間は7か月以上あける ①-③までを12か月までに終了する ・初回接種が生後7か月-11か月：①、②の後7か月以上あけて③ ・初回接種が1歳-4歳：①のみ	定期：生後2か月-5歳の前日まで 任意：リスクのある患者は5歳以上でも接種可能 注意：ヒブは五種混合ワクチンに含まれています
破傷風トキソイド	接種歴が3回未満の人 接種歴が3回以上の人 ①-②の間は3-8週以上あける 10年ごとに1回接種 ①-③の間は12-18か月あける	・過去に3回の接種歴がない人 ・3回接種歴がある人は10年ごとに1回接種 注意：1967年以前の生まれの人は定期接種がありません
BCG	定期：生後12か月未満 標準的には、生後5か月から8か月	
麻しん・風しん（MR）	①：1歳-2歳の誕生日の前日まで ②：5歳-7歳未満（小学校就学前の1年間） 任意：1歳以降年齢接種可能 麻疹曝露後や流行地域では、生後6か月以降で接種可能その場合は接種回数には数えず、①、②は規定通り接種する	定期：①1歳、②年長児相当 風しん第5期：風しん抗体検査にて抗体が不十分であった人（風しん抗体検査は2024年度まで終了）
おたふくかぜ	①：1歳以降 早期に ②：5歳-7歳未満（小学校就学前の1年間） ①から4週間あければ接種可能	任意：1歳以降年齢接種可能

ワクチン名	接種間隔	対象者・注意事項
水痘（水痘・带状疱疹）	1歳-3歳未満： ①：1歳以降 早期に ②：①から3か月以上あける 3歳以上：①-②の間は4週間以上あける	【水痘予防】 2回の接種歴がないかつ感染歴のない人 定期：1歳-3歳の誕生日前日まで 任意：1歳以降年齢接種可能 【带状疱疹予防】 带状疱疹予防目的 定期：①年度内に65,70,75,80,85,90,95,100歳になる人、100歳以上の方（2025年度のみ） ②60~64歳で、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫の機能の障害があり、日常生活がほとんど不可能な人 任意（水痘）：50歳以上の人 任意（带状疱疹）：50歳以上、リスクが高い18歳以上
带状疱疹	①-②の間は2か月-6か月あける *リスクが高い18歳以上：①-②の間は1-2か月あける	
日本脳炎	①-②の間は6日以上（-28日）あける ②-③の間は6か月以上あける ④：9歳-13歳未満 任意：生後6か月以降年齢接種可能2005年5月からの積極的勧奨の差し控えを受け、特定対象者（1995年4月2日から2007年4月1日生まれの人）は、20歳の誕生日前日まで定期接種可能	定期：1期：3歳-7歳6か月（自治体によっては生後6か月から開始） 2期：9歳以上13歳未満
インフルエンザ	【不活化】13歳未満：①-②の間は4週（2-4週）あける 【経鼻生】2歳-19歳未満	定期：65歳以上（成人のスケジュール参照） 任意：生後6か月以上の全年齢 任意：2歳から19歳未満
新型コロナウイルス	製剤ごとに定められている方法 最新情報は厚生労働省のホームページなどを参照 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html	定期：65歳以上（成人のスケジュール参照） 任意：生後6か月以上の全年齢 年齢によって使用する製剤や投与量が異なる
HPV（ヒトパピローマウイルス）	①-②の間は1か月以上あける ①-③の間は6か月以上あける 標準的な接種ができなかった場合、①-②の間は1か月以上、①-③の間は5か月以上、かつ②-③の間は2か月半以上あける ①-②の間は2か月以上あける ①-③の間は6か月以上あける 標準的な接種ができなかった場合、①-②の間は1か月以上、②-③の間は3か月以上あける 9価 9-15歳未満：2回でも可、その場合①-②の間は5か月以上あける	2価ワクチン 定期：小学校6年から高校1年女性 任意：10歳以上の女性 4価・9価ワクチン 定期（4価）（9価）： 小学校6年から高校1年女性 任意（4価）：9歳以上の男女 任意（9価）：9歳以上の女性 キャッチアップ接種 1997年4月2日から2008年4月1日生まれの女性 2024年度中に1回以上接種した人は2026年3月末までに2・3回目の接種が可能
髄膜炎菌（4価）	①-②の間は8週以上あける 任意：2歳以上 (1) 髄膜炎菌感染症流行地域へ渡航する人 (2) 学校の寮などで集団生活を送る人、送る予定の人 (3) マスギャザリングイベントに参加する人 (4) リスクのある患者（HIV感染症、補体欠損症、無脾症など）	
A型肝炎	①-②の間は2-4週あける ①-③の間は20-24週以上あける	任意：全年齢接種可能（WHOは1歳以上を推奨） A型肝炎流行地へ渡航する人
RSウイルス	任意：アレクスピーー筋注用：60歳以上、リスクが高い50歳以上 任意：アプリスボ筋注用：妊娠（24）28~36週の妊婦（母子免疫）、60歳以上・有効性がより高い妊娠28週~36週での接種を推奨	



おとな 成人 ワクチン接種スケジュール



ワクチン名	接種間隔	対象者・注意事項
B型肝炎	①-②の間は4週以上あける ①-③の間は20週以上あける	・ハイリスク者：（医療従事者、透析患者、海外長期滞在者など） ・予防したい人はだれでも
肺炎球菌(結合型) (PCV15・20)	前回の接種から5年以上あける	高齢者または肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高い人
肺炎球菌 (PPSV23)	前回の接種から5年以上あける	<p>定期：65歳の者 ・60歳以上で心臓・腎臓または呼吸器の機能に自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する人 およびHIVウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する人</p> <p>接種推奨： (1) 脾臓摘出した人の肺炎球菌予防（健康保険適用あり） (2) 鎌状赤血球症、脾機能不全、心臓・呼吸器の慢性疾患、腎不全、肝機能障害、糖尿病、慢性髄液漏等々の基礎疾患のある人、免疫抑制剤治療予定者（治療開始まで14日以上の余裕のある場合）</p>
三種混合 (ジフテリア・百日咳・破傷風)	接種歴が3回未満の人 ①-②の間は3-8週以上あける ①-③の間は12-18か月あける	<p>破傷風トキソイドまたは三種混合ワクチンの接種歴が3回未満の人：破傷風トキソイドを計3回になるまで接種 3回以上の人：前回の接種から10年ごとに破傷風トキソイドを1回接種</p> <p>・諸外国では、10年ごとの接種のうち、百日咳予防のため1回以上を破傷風トキソイドからTdapに置換することを推奨 日本でも三種混合（DPT：DTaP）ワクチンの接種が可能 ・注意：Tdapは日本未承認のワクチン 日本三種混合（DPT：DTaP）は破傷風トキソイド含有量がTdapの半分 ・外傷後の破傷風トキソイドの接種は、外傷の程度と接種歴に準じる ・1967年以前生まれの人は定期接種になかったため、破傷風予防ワクチン接種歴のない人が多い</p>
破傷風トキソイド	接種歴が3回以上の人 10年ごとに1回接種	
ヒブ (インフルエンザ菌b型)	1回接種	5歳以上の脾機能不全・補体欠損症・HIV感染症・骨髄移植後でヒブワクチン未接種者
麻しん・風しん (MR)	①-②の間は4週以上あける	定期 風しん第5期： 1962年4月2日から1979年4月1日生まれの男性 2024年度までに実施した風しん抗体検査にて、抗体が不十分であった人のみワクチン接種可能（2027年3月未まで）
おたふくかぜ	①-②の間は4週以上あける	2回の接種歴がない かつ 感染歴のない人
水痘 (水痘・带状疱疹)	①-②の間は4週以上あける	<p>【水痘予防：2回接種】 任意：2回の接種歴がないかつ感染歴のない人 【带状疱疹予防：1回接種】 定期：①年度内に65,70,75,80,85,90,95,100歳になる人、100歳以上の方(2025年度のみ) ②60~64歳で、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)による免疫の機能の障害があり、日常生活がほとんど不可能な人 任意：50歳以上の人</p>

ワクチン名	接種間隔	対象者・注意事項
带状疱疹	①-②の間は2か月-6か月あける *リスクが高い18歳以上： ①-②の間は1か月-2か月あける	定期：①年度内に65,70,75,80,85,90,95,100歳になる人、100歳以上の方(2025年度のみ) ②60~64歳で、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)による免疫の機能の障害があり、日常生活がほとんど不可能な人 任意：50歳以上、リスクが高い18歳以上
日本脳炎	①のあと1-4週後に②、その1年後に③	・接種歴が3回ない人：3回接種 ・接種歴が3回ある人：日本脳炎流行地へ渡航する際に1回 注意：北海道は2016年4月から小児に定期接種開始
インフルエンザ	定期：・65歳以上 ・60歳以上65歳未満で心臓・腎臓または呼吸器の機能に自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する人 およびHIVウイルスにより日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する人	任意：予防したい人はだれでも 年齢によって使用する製剤や投与量が異なる
新型コロナ	製剤ごとに定められている方法 最新情報は厚生労働省のホームページなどを参照 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html	
HPV (ヒトパピローマウイルス)	①-②の間は1か月以上あける ①-③の間は6か月以上あける 標準的な接種ができなかった場合、①-②の間は1か月以上、①-③の間は5か月以上、かつ②-③の間は2か月半以上あける	<p>2価ワクチン 任意：10歳以上の女性 キャッチアップ接種 1997年4月2日から2008年4月1日生まれの女性 2024年度中に1回以上接種した人は、2026年3月末までに2・3回目の接種が可能</p> <p>4価・9価ワクチン 任意(4価)：9歳以上の男女 任意(9価)：9歳以上の女性</p>
髄膜炎菌 (4価)	①-②の間は8週以上あける	2歳以上55歳以下 (1) 髄膜炎菌感染症流行地域へ渡航する人 (2) 学校の寮などで集団生活を送る人、送る予定の人 (3) マスギャザリングイベントに参加する人 (4) リスクのある患者(HIV感染症、補体欠損症、無脾症など)
A型肝炎	①-②の間は2-4週あける ①-③の間は24週以上あける	任意：A型肝炎流行地へ渡航する人 予防したい人はだれでも
RSウイルス		任意：アレックスビー筋注用：60歳以上、リスクが高い50歳以上 任意：アプリスボ筋注用：妊娠(24)28~36週の妊婦(母子免疫)、60歳以上 ・有効性がより高い妊娠28週~36週での接種を推奨



こども 0歳~19歳 ワクチン接種スケジュール



ワクチン名	接種回数	接種時期																																			
		0歳	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳	3か月	6か月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳			
不活化ワクチン B型肝炎	3回			①	②					③																											
	母子感染予防3回	①	②						③																												
生ワクチン ロタウイルス	1価 2回			①	②																																
	5価 3回			①	②	③																															
不活化ワクチン 肺炎球菌(結合型)(PCV15・20)	4回			①	②	③								④																							
不活化ワクチン 肺炎球菌(PPSV23)	1回																																				
不活化ワクチン 五種混合(ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ・ヒブ) 四種混合(ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ) 二種混合(ジフテリア・破傷風) 三種混合(ジフテリア・百日咳・破傷風)	4回	五種混合 四種混合	①	②	③									④																							
		二種混合(DT)																																		①	
		三種混合																																			
不活化ワクチン ポリオ(IPV)	4回																																				
不活化ワクチン ヒブ(インフルエンザ菌b型)	4回			①	②	③								④																							
生ワクチン BCG	1回							①																													
生ワクチン 麻しん・風しん(MR)	2回																																				
生ワクチン 水痘	2回													①	②																						
生ワクチン おたふくかぜ	2回													①																							
不活化ワクチン 日本脳炎	4回																																				
不活化ワクチン インフルエンザ	13歳未満 2回 13歳以上 1回																																				
生ワクチン 新型コロナウイルス	1回																																				
不活化ワクチン HPV(ヒトパピローマウイルス)	2価 3回																																				
	4価 3回																																				
	9価 9歳以上 3回 (15歳未満は2回でも可)																																				
不活化ワクチン 髄膜炎菌(4価)	1回 (リスクが高い人2回)																																				
不活化ワクチン A型肝炎	3回																																				

不活化 不活化ワクチン
生 生ワクチン
mRNA mRNAワクチン
定期 法律に定められた期間で接種した場合は無料(公費負担)
任意 接種費用は自己負担(自治体によっては接種費用の助成があります)ですが、ワクチンの必要性は定期と同じです

定期接種の推奨期間
 定期接種の可能期間
 任意接種の推奨期間
 任意接種の可能期間

スケジュールは最新情報をご確認ください





ワクチン名	接種間隔	対象者・注意事項
B型肝炎	①-②の間は4週以上あける ①-③の間は20週以上あける	定期：0歳で3回接種 1歳以上でも未接種の場合は、早めに接種することを推奨
	①生直後 ②生後1か月 ③生後6か月	HBs抗原陽性の母親から生まれたHBs抗原陰性の乳児（健康保険適用）
ロタウイルス	生後6週以降、①は生後8週-15週未満を推奨（遅くとも生後14週6日までに開始） ・1価ワクチン：①-②は4週以上あける ・5価ワクチン：①-②-③は4週以上あける	定期：1価ワクチン 生後6週から6か月（24週）までに完了する 定期：5価ワクチン 生後6週から8か月（32週）までに完了する
	・初回接種が生後2か月-6か月：①-②-③の間はそれぞれ27日以上あける、③-④の間は60日以上あけて、1歳から1歳3か月で④を接種 ・初回接種が生後7か月-11か月：①、②の接種後60日以上あけて1歳以降に③ ・初回接種が1歳-生後23か月： ①-②の間は60日以上あける ・初回接種が2歳-4歳：①のみ	定期：生後2か月から5歳の前日まで 任意：肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高い人
肺炎球菌（結合型）（PCV15・20）		
肺炎球菌（PPSV23）		任意：2歳以上 対象者：（1）脾臓摘出した人の肺炎球菌予防（健康保険適用）（2）鎌状赤血球症、脾機能不全、心臓・呼吸器の慢性疾患、腎不全、肝機能障害、糖尿病、慢性髄液漏等の基礎疾患のある人、免疫抑制剤治療予定者（治療開始まで14日以上の余裕のある場合）
五種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ・ヒブ） 四種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ） 二種混合（ジフテリア・破傷風） 三種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風）	①-②-③の間はそれぞれ20-56日あける ③-④の間は6か月以上あける （標準は③終了後12-18か月の間）	定期： 1期：生後2か月-7歳半の前日まで （五種混合・四種混合・三種混合+ポリオ） ・二種混合を1期に使用する場合は生後3か月から2期：11歳-13歳の誕生日前日まで（二種混合）
	11歳-13歳未満 二種混合 二種混合の代わりに三種混合ワクチンを接種可（百日咳予防目的）	任意（推奨）：5歳-7歳未満 三種混合ワクチンを追加接種（百日咳予防目的） ポリオワクチンを追加接種（ポリオ予防目的）
ポリオ（IPV）	①-②-③はそれぞれ20-56日あける ③-④は6か月以上あける （標準は③終了後12-18か月の間）	定期：生後2か月-7歳半の前日まで （標準として生後2か月-12か月の間に①-③） 任意（推奨）：⑤ 5歳-7歳未満 ポリオに対する免疫が低下する前の接種を推奨
ヒブ（インフルエンザ菌b型）	・初回接種が生後2か月-6か月：①-②-③の間はそれぞれ27日以上、③-④の間は7か月以上あける。①-③までを12か月までに終了する ・初回接種が生後7か月-11か月： ①、②の後は7か月以上あけて③ ・初回接種が1歳-4歳：①のみ	定期：生後2か月-5歳の前日まで 任意：リスクのある患者は5歳以上でも接種可能 注意：ヒブは五種混合ワクチンに含まれています
BCG		定期：生後12か月未満 標準的には、生後5か月-8か月

ワクチン名	接種間隔	対象者・注意事項
麻しん・風しん（MR）	①：1歳-2歳の誕生日の前日まで ②：5歳-7歳未満 （小学校就学前の1年間）	定期：①1歳、②年長児相当 任意：1歳以降全年齢接種可能 麻疹曝露後や流行地域では、生後6か月以降で接種可能 その場合は接種回数には数えず、①、②は規定通り接種する
水痘	1歳-3歳未満： ①：1歳以降 早期に ②：①から3か月以上あける 3歳以上：①-②の間は4週間以上あける	定期：1歳から3歳の誕生日前日まで 任意：1歳以降全年齢接種可能
おたふくかぜ	①：1歳以降 早期に ②：5歳-7歳未満（小学校就学前の1年間） ①から4週間あければ接種可能	任意：1歳以降全年齢接種可能
日本脳炎	①-②の間は6日以上（-28日）あける ②-③の間は6か月以上あける ④：9歳-13歳未満	定期：1期：3歳から7歳6か月 （自治体によっては生後6か月から開始） 2期：9歳以上13歳未満 任意：生後6か月以降全年齢接種可能 2005年5月からの積極的勧奨の差し控えを受け、特定対象者（1995年4月2日から2007年4月1日生まれの人）は、20歳の誕生日前日までは定期接種可能
インフルエンザ	【不活化】13歳未満：①-②の間は4週（2-4週）あける	任意：生後6か月以上全年齢 定期：65歳以上（成人のスケジュール参照）
	【経鼻生】2歳-19歳未満	任意：2歳から19歳未満
新型コロナ	製剤ごとに定められている方法	年齢によって使用する製剤や投与量が異なる 最新情報は厚生労働省のホームページなどを参照 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html
HPV（ヒトパピローマウイルス）	①-②の間は1か月以上あける ①-③の間は6か月以上あける 標準的な接種ができなかった場合、①-②の間は1か月以上、①-③の間は5か月以上、かつ②-③の間は2か月半以上あける	2価ワクチン 定期：小学校6年から高校1年女性 任意：10歳以上の女性
	①-②の間は2か月以上あける ①-③の間は6か月以上あける 標準的な接種ができなかった場合、①-②の間は1か月以上、②-③の間は3か月以上あける 9価 9-15歳未満：2回でも可、その場合①-②の間は6か月-12か月あける	4価・9価ワクチン 定期（4価）（9価）： 小学校6年から高校1年女性 任意（4価）：9歳以上の男女 任意（9価）：9歳以上の女性
髄膜炎菌	①-②の間は8週以上あける	任意：2歳以上 （1）髄膜炎菌感染症流行地域へ渡航する人 （2）学校の寮などで集団生活を送る人、送る予定の人 （3）マスクギャザリングイベントに参加する人 （4）リスクのある患者（HIV感染症、補体欠損症、無脾症など）
A型肝炎	①-②の間は2-4週あける ①-③の間は20-24週以上あける	任意：全年齢接種可能（WHOは1歳以上を推奨） A型肝炎流行地へ渡航する人

